

テーマ： トキワ荘マンガミュージアム（トキワ荘再現施設）における
再現手法の紹介

所 属： 豊島区総務部施設整備課

1. はじめに

豊島区には、マンガ創成期に貢献した手塚治他多数のマンガ家が共同生活を営んでいた“トキワ荘”がかつて存在し、『マンガ発祥の地』、『マンガの聖地』として地域に親しまれてきたが、老朽化のため昭和 57 年に惜しまれつつ解体された。

しかし、昨今のマンガブームの盛況さや、地域の活性化を望む地元からの要望等を受け、平成 29 年 5 月に『(仮称) マンガの聖地としまミュージアム整備基本計画』を地域・有識者と協同で策定し、トキワ荘の再現を中心とする『地域に根ざした博物館』の建設を行うこととなり、令和 2 年 2 月に完成するに至った。

建物は、当時の外観・居住空間の再現（2 F）及び書籍の展示・閲覧や企画展を行う展示スペース（1 F）の“トキワ荘”再現施設（S 造）と、運営事務・蔵書管理を行う管理棟（RC 造）の二棟で構成されているおり、再現棟の外観と、エントランスから階段を上がり 2 F に掛けては、様々な手法を用い当時のトキワ荘の姿を現代に蘇らせている。今発表会では、この再現手法を中心に取り上げる。

2. 建物概要

所在地： 豊島区南長崎三丁目

敷地面積： 2021.08㎡

建築面積： 302.11㎡（再現棟：192.90㎡ 管理棟：109.21㎡）

延床面積： 560.87㎡（再現棟：370.39㎡ 管理棟：190.48㎡）

構造： 再現棟 鉄骨造
管理棟 壁式鉄筋コンクリート造

階数： 地上 2 階

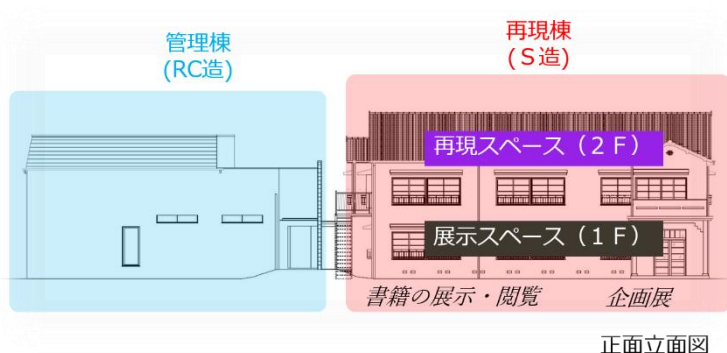
用途： 展示施設

竣工： 令和 2 年 2 月

施工： 設計：丹青社

建築工事：渡邊建設（電気・空調・衛生工事一括発注）

展示工事：丹青社



正面立面図



配置図

3. 設計方針

I. トキワ荘の外観再現による「マンガの聖地としま」のランドマーク

トキワ荘の外観は、多くのマンガで描かれる等、マンガ・アニメファンにとって馴染み深いものとなっている。これを忠実に再現し、「マンガの聖地としま」を象徴するランドマークとする。



II. 隣接する公園と調和し、地域の人々に親しまれる憩いの場

隣接する公園の利用は維持しつつ、さらに区民に親しまれる公園として、公園全体と本施設が調和し、訪れる人を楽しませる機能を備える。

III. 多様な来訪者を迎え入れ、みんなが快適に過ごせる空間

子ども、高齢者、また外国人等多様な人誰もが安全・快適に過ごせるユニバーサルデザインを意識した施設整備を行う。

IV. トキワ荘ゆかりの資料等を安全に展示・公開できる機能

常設展示に加え、企画展示で借用する資料（原稿・マンガ家の愛用品等）を地震・火災等の災害から護るとともに、防犯対策にも十分配慮した施設とする。

V. 限られた空間を有効に利用できるよう、複数の機能を兼ねる施設づくり

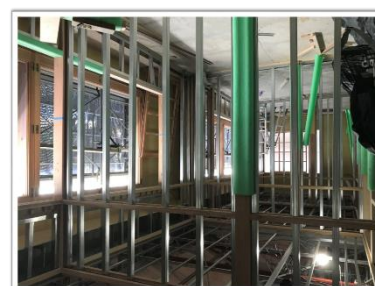
外観再現により抑えられた規模の中、多様な活動展開を実現できるよう、一つのスペースで多様な機能を使い分けられるような工夫を行う。

4. 再現技法

記憶の中のトキワ荘を現出させるため、S造でW造の施設を再現するための工夫、当時の雰囲気等を忠実に再現することを目指した専門の業者による内外装のエイジング加工、当時使用されたものと同質または同様の外観を持つ材料の選定・製作・使用、等を行った。

ー 1 構造の工夫

昭和中期の木造アパートの外観・内部を持つ博物館を実現するために、再現棟の基本構造は鉄骨造とし、法的に必要な性能を外壁に持たせる一方、その内側に木造の内壁や再現建具をしつらえ、アパートの内部施設（居室・廊下・共同トイレ・炊事場等）の再現を行った。外壁と内壁の間に生まれた間隙は設備スペースとして活用することにより、現代の博物館として必要な空調・展示機能をもたせることに寄与している。



ー 2 エージング処理

エイジングとは、見た目が経年変化を感じるように人為的に加工を施す作業のことを言う。

① 外壁

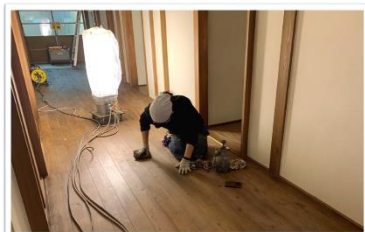
トキワ荘は「築後 10 年経過した状態」（マンガ家が長く住んでいた時代）という設定に基づいている。しかしながら「築後 10 年経過」は、まだ見た目は新築に近かったかもしれない、という議論も併せて経た上で「汚しすぎないようにしつつ、ポイントは押さえて強調する」という方針でエイジング作業を行った。

② 金属部分

エージング表現の見せ場でもあり、丁寧に作業しリアルな表現を目指した。小さなローラーを使用して粘度の高い塗料を使用し、指先で微妙な調整をしながら、わざとかすれるように塗装して、錆のぶつぶつとした感じを出している。



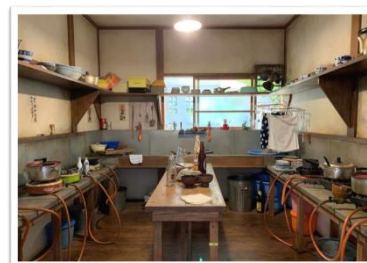
③ 内部木造部分



いったん塗装したものを拭き取ったり、やすりがけをしたり、薄めの塗料をウェスに含ませてこすりつけたり、と複合的な作業を繰り返して完成に近づける。トキワ荘の廊下では木板で完成時はニスを塗って仕上げており、それが経年変化した様子をイメージした。

④ 生活跡

炊事場、便所はエージングの見せ場なので特に力を入れている。



⑤ 階段

往時、トキワ荘に暮らす漫画家たちは階段の軋む音を聞いて編集者がやってくるのを察知した、というエピソードが伝えられている。復元施設の階段では、仕上げ上のエージング処理のみならず、その下地材の間隔や薄さを変えて上り下りの軋み音を意図的に発生させる『音のエージング処理』を施すことにより、当時の雰囲気再現している。



ー 3 材料の選定・製作

当時の写真や保存されていた資料、また、資料が現存しないものは、居住者、近隣の方からヒアリングを行うことにより材料の選定・製作を行った。

① セメント瓦

本建物は耐火建築物として計画されているので、屋根は 30 分の耐火性能を求められる。当初の計画では J I S 規格のセメント瓦を屋根葺材として使用する認定工法で施工することとしていたが、工事途中で現時点では J I S 規格に適合したセメント瓦が生産されていないことが発覚した。そのために急遽、屋根葺材が不燃材料の 30 分耐火の認定工法を変更した。認定工法の変更により野地板の仕様も変更となった。

この時点では不燃材のセメント瓦は存在しないため、今回採用したセメント瓦はセメント瓦メーカーの尽力で新たに不燃材の認定を取得することとなった。但し、確認審査機関は不燃材の認定がないままセメント瓦を葺くことを認めなかったため、不燃認定が下りるまでは仮設のルーフィングと養生シートで工事を進めることとした。

再現を目的とした建物のため、当然のことながらセメント瓦のエイジングも求められた。但し、屋根葺き後にセメント瓦をエイジングすることは漏水が起きた時の施工責任が不明確になるため、瓦の製品自体にエイジングを行うこととした。エイジングを行っていないセメント瓦を製作し、エイジングの専門スタッフがエイジング処理を行い、それに合わせてセメント瓦メーカーが試作を重ねて完成したのが今回使用した瓦である。

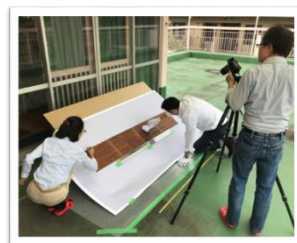


② 天井板

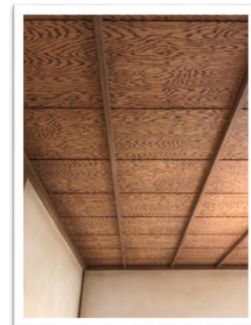
資料として現存する複数枚の天井板を基に竿縁天井の模様の再現を試みた。当時は木目模様がプリントされたベニヤ板が使用されていたが、再現棟は不燃材料で天井を仕上げる必要があるため、実物の天井板を高解像度撮影し質感が現物に近い不燃クロス材に画像を貼り付け、さらにそれを下地となる不燃材料（ケイ酸カルシウム板）に貼り付け天井仕上げ材とした。



現存する天井板



高解像度撮影の様子



天井再現状況

③ 畳表

畳表の再現についてはいくつかの方法が検討された。一つは新しい畳表をエイジングする方法、二つ目は古い畳表を使用する方法である。畳表をエイジングしても歩行による摩耗でエイジングが剥がれてしまう懸念があり、古い畳表はすでに使用されたものなので、衛生面やその後の耐久性も考慮して不採用になった。

今回採用した畳表は耐久性と衛生面も考慮し、古い風合いがあり色の変化のない高温熱処理滅菌した黄金色の和紙畳表を採用した。



5. まとめ



かつて豊島区南長崎（当時の地名は椎名町）に存在し、多数のマンガ家やマンガ愛好者の記憶の中に今も生き続け、語り継がれてきたトキワ荘。その姿を、綿密な調査、高度な技術、様々な工夫を以って忠実に再現した「トキワ荘マンガミュージアム」は、縁ある人々、地域の住民や観光者に愛される施設となるとともに、「マンガの聖地としま」の象徴として、かつてトキワ荘が発信し続けたマンガ文化の新たな発信地となることを期待している。